

『時事直言』 No.1554 2022年6月24日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](#)

[instagram] [t_masuda2019/](#)

[mail] info@chokugen.com

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](#)

[Youtube] [増田俊男チャンネル/](#)



時事評論家 増田俊男

何故日本は「ゾンビ」(得体の知れない生き物)と言われるのか

日本は神話の時代から万世一系の天皇を頂いている、稀にみる単一民族国家である。

この事実が日本を多方面にわたってユニーク(特異)にしている。

「日本の常識は世界の非常識」と恩師竹村健一先生は言われたが、何かにつけ日本は世界と異なることが多い。

日本は戦後の「民主主義の優等生」と言われるが、民主主義は「個人」を基盤にしているが、日本の文化は家族主義である。

「みんなで渡れば怖くない」と言われるように個人ではなく「みんな」の安全や利益が根底にある。

従って日本は家族または団体がベースになっているので民主主義と個人主義の原則である Conflict of interest(利害相反する関係)の感覚がない。

西欧では家族と言えども独立した個人の集まりだから、互いに広義の競争相手である。

家族の誰が一番先に道路を渡るかを競う。

道路を一番先に渡る者があれば交通事故に遭う者もある。

どこの国においても「通貨無くして政治・経済なし」。

民主主義の原則として、通貨発行権を持つ中央銀行は債権者として、又国家は通貨を使用する債務者として明確に分離されている。

日本の国家と国民にとって最も重要な通貨発行元(日銀)と政府の関係を安倍元首相は「日銀は政府の子会社」と言って物議を醸したが、政府は日銀の筆頭株主で総発行株式の55%を財務大臣名で保有している。

自由主義諸国の中で政府が中央銀行の株式を保有している国は皆無。

債務者が債権者を所有することを不自然と思わないのは日本だけである。

メーカーや小売業者がテレビで値上げをしなくてはならなくなったといって頭を下げている光景は日本以外の国で見ることはいない。

総ての価格は需要と供給で決まる。

コストが高くなれば価格が上がるのは当然で、誰が悪いわけでもない。

しかし日本では消費者もメーカーも小売業者も「増田塾の増田一家」と同じく家族だから一人だけ良い子にはなれないのである。

金融、財政、政治、スポーツ等々の世界で日本の文化が日本をゾンビにしている。

日本が、得体が知れないと思われるのは価値観が家族や団体に置かれている為個人単位ベースの価値観とそぐわないからである。

7月25日から始まる増田俊男の「インターネット国際政経塾」(増田塾)は私だけが知り得た本物情報と私の日本人としての直感から予知したターニングポイントになるべき「大事件」についてお話しすると同時に、そこから一気に変わって行く世界の流れを分かり易くお話しするつもりである。

決してお見逃し無きよう、ご参加を歓迎します。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。